

エディトリアル

川崎市立多摩病院 救急災害医療センター 医長 野村 悠

「あれっ？これどうすんだっけ？」って思ったことがありますよね。

多くの診療所では『慢性疾患管理』や『在宅医療と介護支援』をしながら急に駆け込む『急病やケガの対応』を行う一方で『健診や保健指導などの予防』にも取り組み、幅広い活動が行われている。

来院者は老若男女問わず、疾患は内科か外科か無関係に、時間軸も「緊急」から「じっくり」まで、さまざまに異なる状況が同時に発生しているため、これらに優先順位をつけて対応しなければならない。常に目の前の事象に対するリスク評価と「今すぐ対応」か「時間をかけて対応」かの判断に迫られている。

今回の特集では、診療所でよく遭遇する疾患や場面において『リスク評価と層別化』に役立つ臨床指標とスコアを取り上げた。予後予測や治療方針決定のための指標は救急や急性疾患で活用されることが多いが、今回は慢性疾患や在宅医療、メンタルヘルスで役立つ知識も整理し、幅広く地域の患者や住民に対応できることを目標にした。

はじめに、緊急検査や治療・入院などを目的に『急いで後方病院へ紹介する必要』があるか判断するのに役立つ指標・スコアを中澤太一先生、船越 拓先生に提示いただいた。一過性脳虚血や失神、軽症頭部外傷など地域の高齢者でよく診られる訴えについてまとめられている。誌面の都合上、今回の掲載疾患は限られるが、多くの予後予測ルールについて他誌でも紹介されているのでご参照いただきたい。次に、診療所で継続して対応可能ではあるが、画像など追加検査の必要性や治療方針を決定する』のに役立つ指標・スコアを田邊翔太先生に提示いただいた。中澤・船越論文との違いは、『診療所でこのまま抱えられる』と考えられる疾患について示したことである。また、治療方針決定に役立つ迅速検査もまとめていただいた。

続いて、慢性疾患管理のための『リスク評価と層別化』について坂井正弘先生に提示いただいた。診療所とは切り離せない生活習慣病の管理目標などを疾患ごとに探す必要なく一覧できるようにまとめていただいた。よく知られた内容だが、1ヵ所にまとめて掲載されているところに価値がある。さらに、在宅医療や介護で役立つ指標・スコアを島崎亮司先生に提示いただいた。在宅での指標という難題をお引き受けいただいたが、かなり実践的内容をまとめていただいた。訪問診療の際に手元に置いておきたい資料である。

最期に、診療所に対応すべきメンタルヘルスに関して役立つ指標・スコアなどを大中俊宏先生に提示いただいた。メンタルヘルスは地域の診療所が避けて通れない分野である。患者にとって最初の窓口として診療所が機能できるための有用なツールを示していただいた。

なお各稿で述べられているが、これらの指標・スコアはいずれも実践的な一方で絶対的なものではなく限界も有していることをご理解いただきながらお役立ていただきたい。

診療所の第一線で活躍される先生方にとって「ぱっと見て一覧でき、目の前の患者さんにすぐに活用できる」便利帳のようになれば幸いである。